

現在のズレ自覚

「伝えた感覚」だけが空回りしていないか？

反応が想定より弱い

意図と違う受け取られ方

書いた後に違和感が残る

相手の反応が読めない

何がズレたか不明 / 修正ポイントが見えない

原因の特定

視点が「内側」に固定されている

主観だけで構成された文章は、誰の心にも触れない。

- 自分の前提で完結している
- 相手の知識が未考慮
- 例えが自己基準
- 感情が先行しすぎている
- 受け手の解釈が未設計

誤認の破壊

文章力や努力量の問題ではない。

捨てるべき「思い込み」：

- 熱量の高さ = 解決、という幻想
- 共感狙いが逆効果になる事実
- 自己満足の混入
- 意図は「伝達保証」にならない
- 主観の正しさは、社会的な意味を持たない

基本構造の提示

「外の視点」を挿入する

- 初見の読者を想定する
- 前提をあえて明文化する
- 例えを一般化し、共通言語化する
- 感情と情報を明確に分離する
- 受け取り方を先に設計する
- 一度切り離して再配置する

変化の実感

伝達の「再現性」が生まれる瞬間

- ズレの発生点が見えるようになる
- 修正箇所をピンポイントで特定できる
- 意図通りに伝達される
- 書き直し回数が劇的に減少する
- 投稿後の不安が解消される
- **他者視点が、思考のOSとして定着する**

最小アクション

今すぐやるべきこと

1. 直近の文章を一つ選択
2. 「初見で読む」と仮定する
3. 意味不明な箇所に印を付ける
4. 前提不足の一行を追加

- 例えを「具体」から「一般」へ
- 感情的な文を一つ削除する
- 再度読み直し、温度を確かめる

資料の使い方

－ 投稿前の「検品」として－

- ズレ検知の明確な基準にする
- 主観修正のトリガーとして活用
- 外視点の再現ツール
- 順番設計・温度調整との併用
- 毎回同じ流れでチェックするルーチン化

次の行動選択

反応の変化を、データで観測する

- 過去投稿を外視点で再構成
- 続く三投稿で変化を検証
- 改善点を記録し、型を作る
- 必要なら第三者の客観的確認
- 不要なら、この手法を捨てる